

報道関係各位

東日本大震災後の福島県への旅行者対象 意識調査

「福島県を訪れて良かった」は91%

～震災被害は感じないものの、風評被害による観光客の減少を実感
旅行者は福島県の観光地としての魅力を高く評価し、約92%が再訪を希望～

クラブツーリズム株式会社(東京都新宿区、代表取締役社長:岡本邦夫、以下クラブツーリズム)は、東日本大震災後に福島県へクラブツーリズムのツアーで訪れた旅行者のうち、661名を対象に、福島県旅行に関する意識調査を実施いたしました。

東日本大震災後、福島県への旅行者は大幅に減少し、風評被害による悪影響が懸念されています。震災後、福島県をはじめとする東北方面への旅やイベントを積極的に実施してきたクラブツーリズムでは、2012年2月に実施した東北旅行者に対する意識調査に続いて、旅行先としての福島県に対する意識をとらえるため、「福島県を訪れた理由」「福島県を旅行するにあたり不安だったこと」「実際に訪れた感想」などに関して調査を行いました。

<調査結果概要>

- 1) 福島県を訪れた目的・理由は、「復興支援の思いから」が60.4%とトップ
・2月に実施した東北旅行者への調査と同様に復興支援への思いが強い
- 2) 福島県を訪れる際に不安に感じたことは、「原発の影響による放射能問題」が1位
・「原発の影響による放射能問題」が81.2%にのぼり、目に見えない放射能への不安は依然として高い
- 3) 福島県を訪れた感想は、「良かった」が91%
・約92%が再訪を希望し、目的の1位は「興味のあるイベントやツアーがあれば再訪したい」
・復興支援目的の観光に加え、福島県の観光資源を高く評価し、再訪を検討
- 4) 旅行前に不安があった人の方が、旅行の満足度、再訪の希望は高い
・旅行前に不安があった人の約95%が満足し、約94%が再訪を希望
- 5) 旅行中、震災被害は感じなかったものの、風評被害による観光客の減少を実感
・直接の震災被害を受けていない福島県の観光地を訪れた旅行者の多くが観光客の少なさを実感

◆報道関係のお問合せ先

株式会社プラップ ジャパン クラブツーリズム広報担当:平井 隆介、菊池 洋平、中村 由帆
TEL:03-4580-9105 FAX:03-4580-9131 E-mail: club-tourism@ml.prap.co.jp

クラブツーリズム株式会社 広報担当:田中 貴、木村 佳世、吉田 孝行
TEL:03-5323-6875(月～金 9:15～17:30/土日祝除く) FAX:03-5323-6999 E-mail: ctpr@club-tourism.co.jp

<調査の実施概要、回答者の特性>

対象： 東日本大震災後にクラブツーリズム主催ツアーで福島県へ旅行したお客様
(性別・年齢無作為選定)

サンプル数： 1,000 名

調査方法： 以下の4種類のクラブツーリズム主催ツアー参加者から抽出し、
東日本大震災後に参加した福島県旅行ツアーについて郵送調査
・震災5ヵ月後に福島県の会津・裏磐梯を訪れたツアー
・震災7ヵ月後に福島県の裏磐梯を訪れたツアー
・震災13ヵ月後に福島県のスパリゾートハワイアンズを訪れたツアー
・震災3ヵ月後～11ヵ月後に福島県の裏磐梯を訪れたツアー

実施時期： 2012年5月

有効回収数(率)： 661名(回収率66.1%)

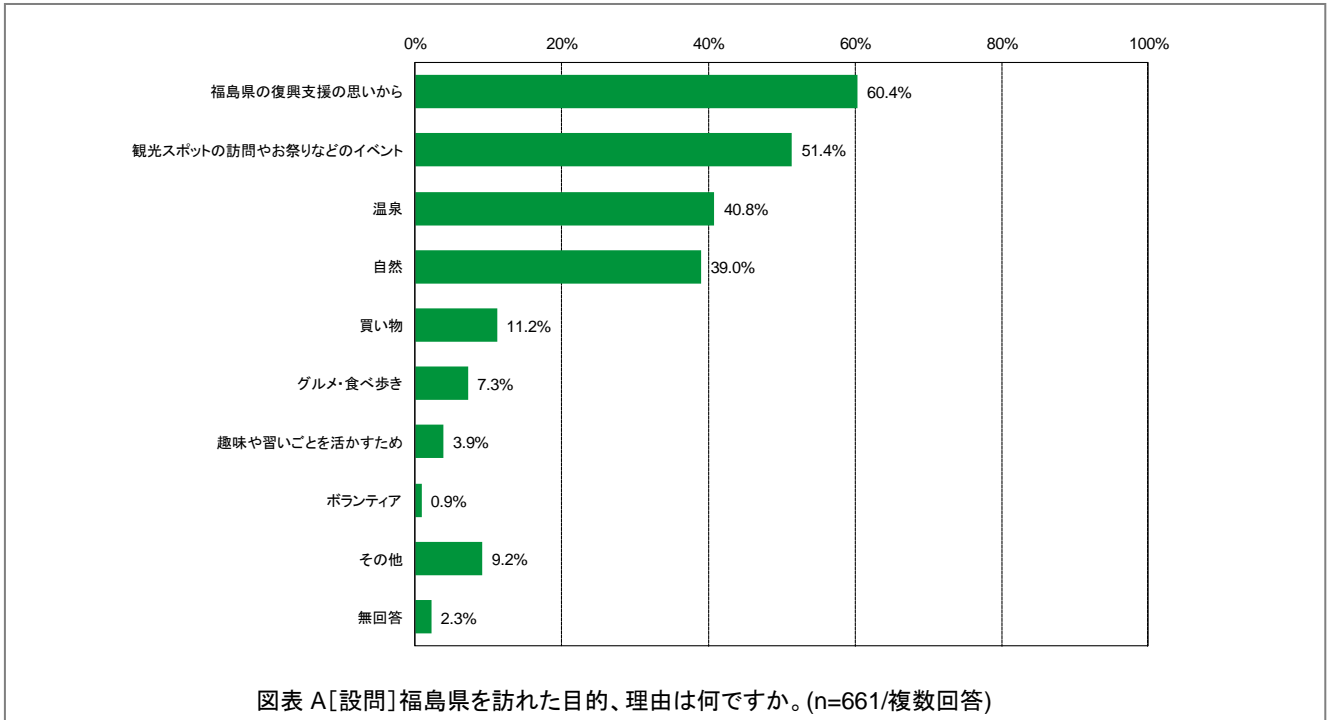
回答者の属性：

	全体	20代未満	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代	年齢無回答
全体	661	1	1	4	27	92	249	218	52	1	5
%	100%	0.2%	0.2%	0.6%	4.1%	13.9%	37.7%	33.0%	7.9%	0.2%	0.8%
男性	262	1	0	1	7	28	87	101	35	1	1
%	39.6%	0.4%	0.0%	0.4%	1.1%	4.2%	13.2%	15.3%	5.3%	0.4%	0.4%
女性	388	0	1	3	20	64	162	117	17	0	4
%	58.7%	0.0%	0.3%	0.8%	5.2%	16.6%	42.1%	30.4%	4.4%	0.0%	1.0%
性別無回答	11										
%	1.7%										

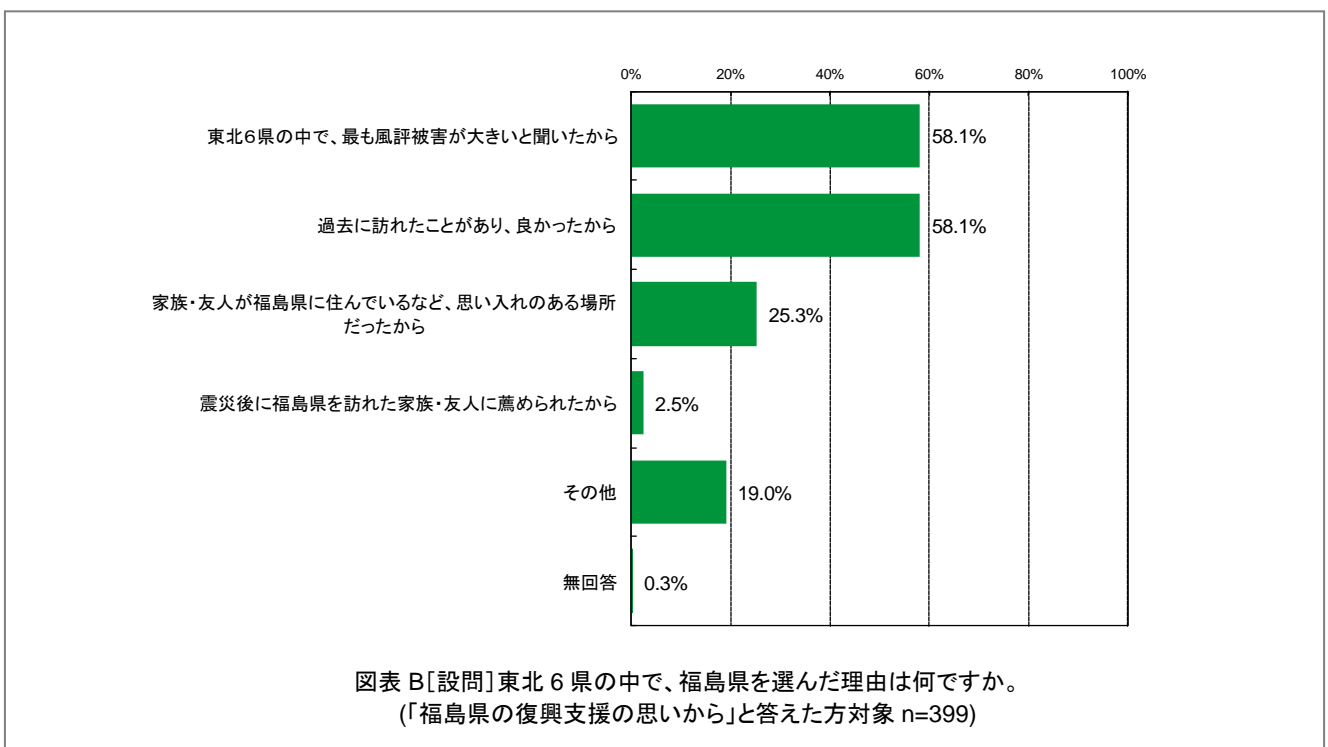
＜調査結果＞

1) 福島県を訪れた目的・理由は「復興支援の思いから」が60.4%で1位

福島県を訪れた目的、理由について尋ねたところ、「復興支援の思いから」が60.4%で1位となりました。次いで「観光スポットの訪問やお祭りなどのイベント」51.4%、「温泉」40.8%、「自然」39.0%など、福島県への観光を目的とした理由も多くなっています(図表 A)。「復興支援の思いから」の数値は東日本大震災後の東北6県への旅行者を対象とした意識調査(3月2日発表)の結果と同様、1番の目的・理由として挙げられており、復興支援の思いが福島、東北への旅行の動機となっていることがうかがえます。

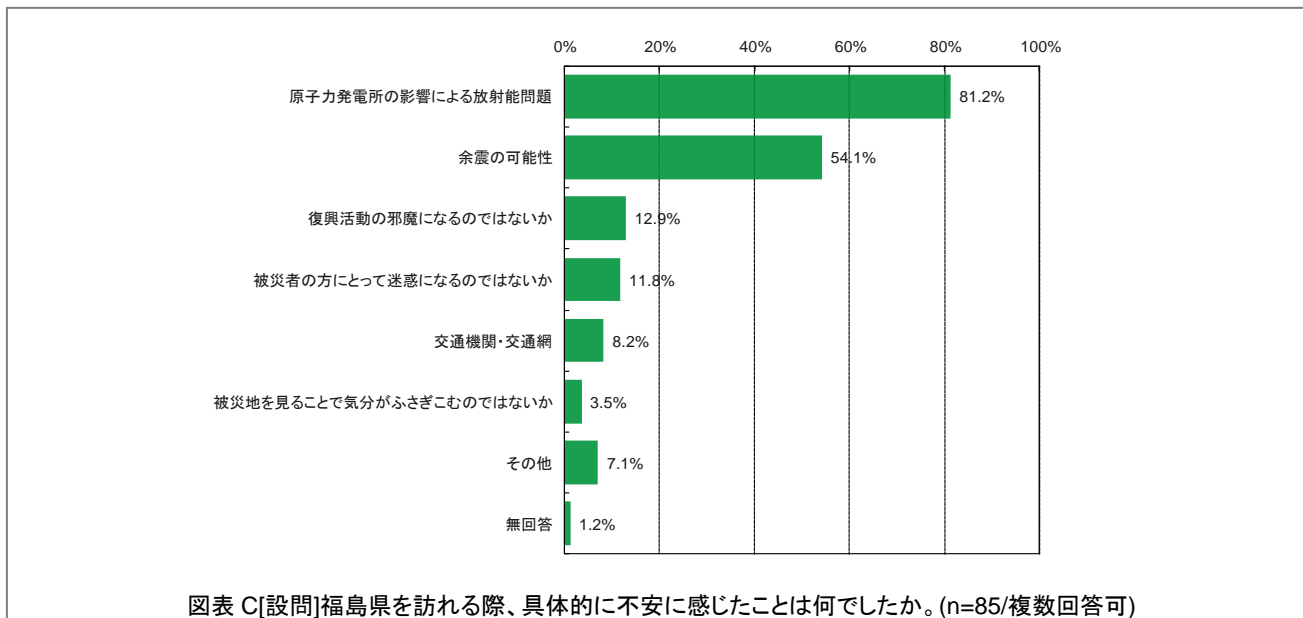


また、「復興支援」を理由として東北の中でも福島県を旅行先に選んだ理由としては、「風評被害が最も大きいと聞いたから」と同時に「過去に訪れたことがあり、良かったから」が58.1%と高い値を占め、福島を応援する気持ちと同様、福島の旅先としての魅力が訪問するきっかけになっています(図表 B)。



2) 福島県を訪れる際、不安に感じたことは、「原子力発電所の影響による放射能問題」がトップ。目に見えない放射能に対する不安が高い

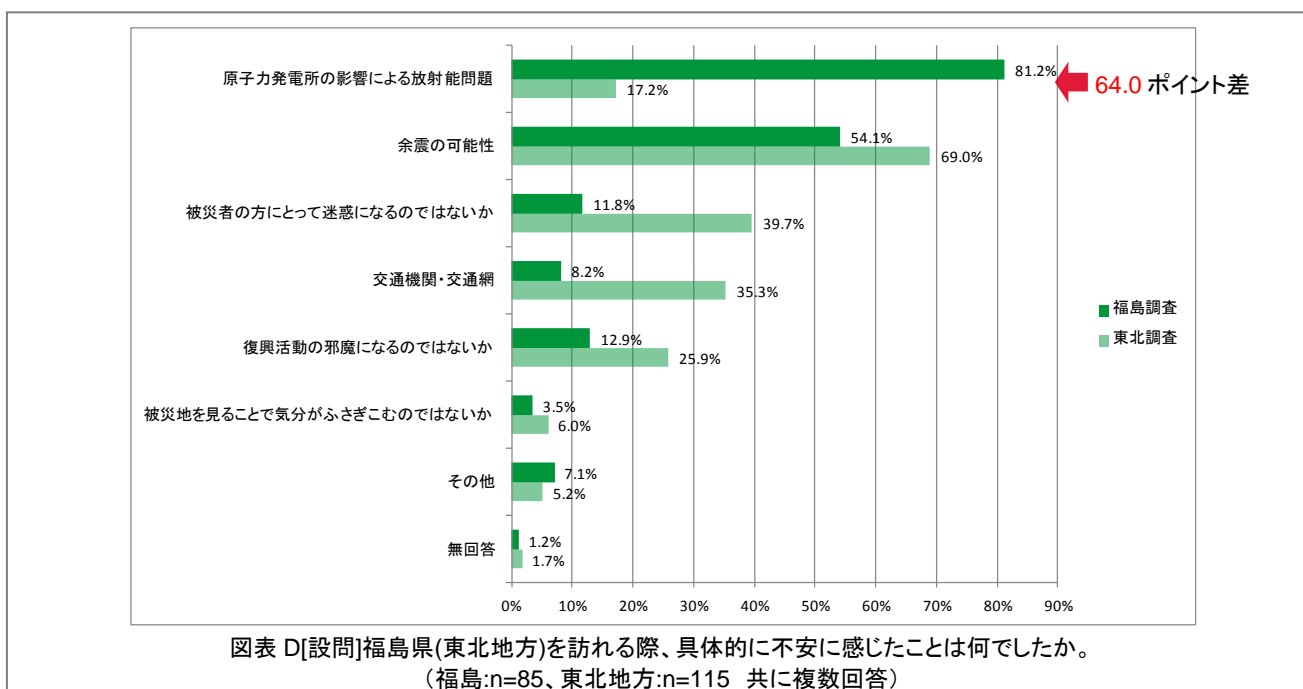
福島県を訪れる際に不安を感じた人を対象に具体的な不安の内容について聞いたところ、「原子力発電所の影響による放射能問題」が81.2%と際立って高く、実際に福島第一原子力発電所が位置する県であるが故に真っ先に浮かぶ懸念点であることがうかがえます。次いで「余震の可能性」の54.1%が過半数を超えましたが、その他の項目に関しては10%前後の結果となり、放射能と余震の可能性が2大不安要素となっています。(図表 C)



また、不安を感じている人(不安があった・やや不安があった)の福島県の訪問理由は、「福島県の復興支援の思いから」が最も多く63.5%で、この数値は不安のなかった人(不安はなかった・あまり不安はなかった)の62.2%を1.3ポイント上回っているところから、不安はありつつも復興支援のために福島訪問を決めた背景がうかがえます。

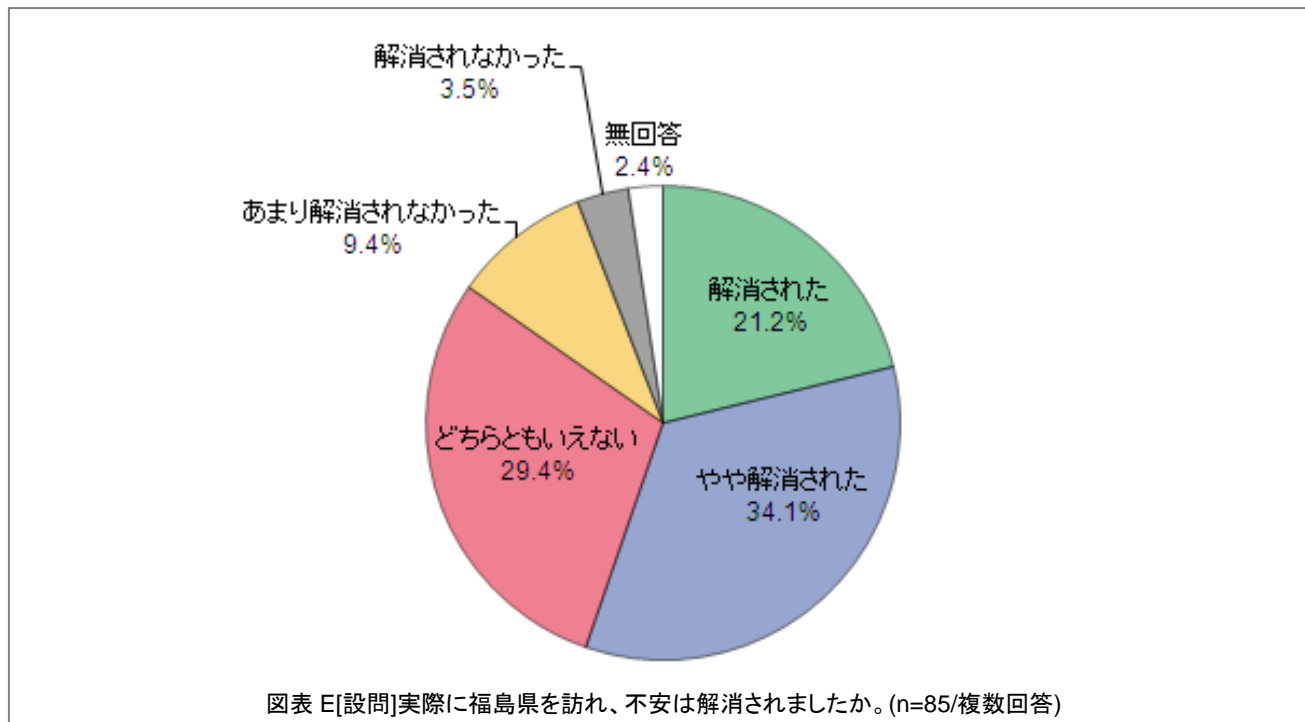
東北6県への旅行者が抱く不安と、福島への旅行者の最大の差異は「原子力発電所の影響による放射能問題」への不安。「余震の可能性」に関しては、東北・福島共に過半数以上が不安に感じている

東北旅行者と福島旅行者の不安に感じた内容を比較すると、どちらも「余震の可能性」への不安は高かったものの、一番の差異は「原子力発電所の影響による放射能問題」への不安で、東北旅行者の17.2%に対して81.2%と4倍以上の人が不安であったと回答しています。東北6県の中でも福島県への旅行へのハードルになっているのは、放射能に対する不安であることが浮き彫りとなりました(図表 D)。



3) 不安を感じた人の 55.3%が不安は解消されたと回答

福島県訪問に不安を感じた人を対象に不安が解消されたか尋ねたところ、「解消された」21.2%、「やや解消された」34.1%と半数以上の人不安は解消されたと回答し、現地を訪れたことで不安が軽減されたことがうかがえます(図表 E)。



「不安が解消された」「やや解消された」と回答した方を対象にどのようなことから不安が解消されたのか質問したところ、現地の方の普段の生活を見たことや復興支援に取り組む姿から不安が解消されたとの回答が目立ちました。

不安が解消したと回答した人のコメント

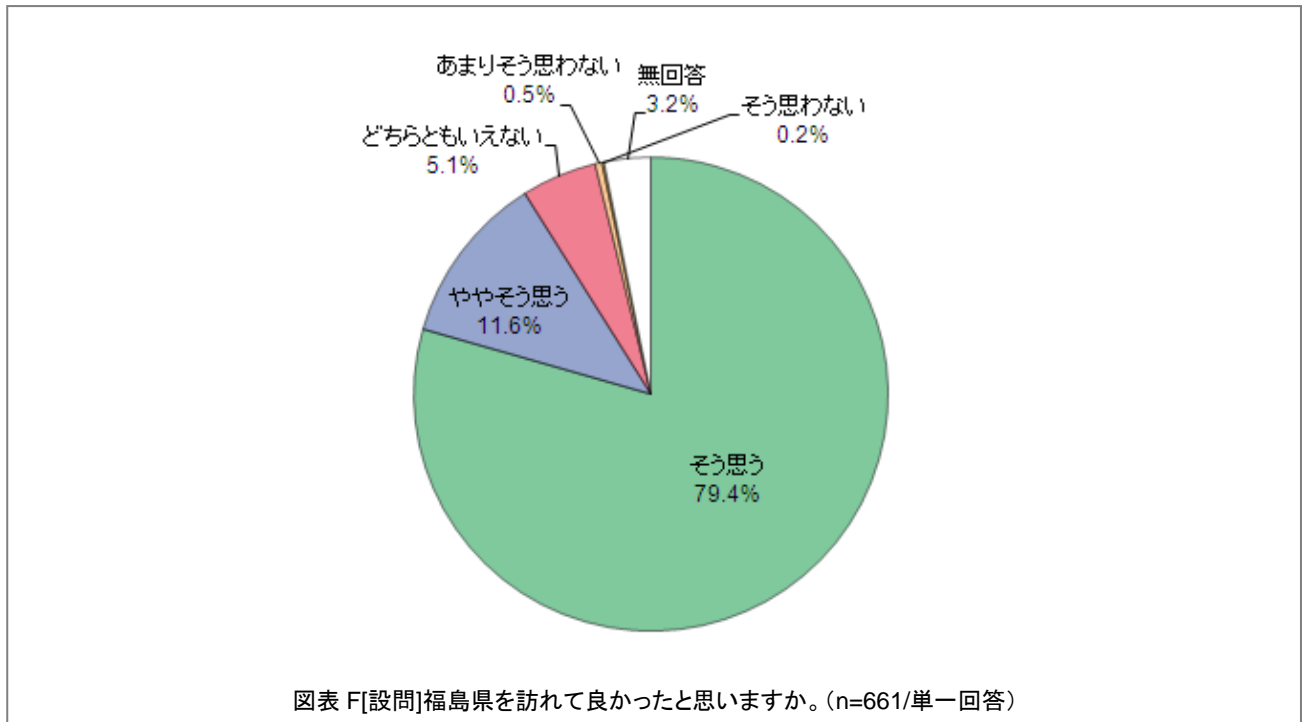
「訪れた場所(ホテル、土産店)での福島の方達が、自然体で接客している姿をみて、原発で被災したのがウソのようでした。何もなかったような気がしました」

「土地の人々が普通の暮らしを取り戻している様子で働いていた。避難地域以外は安全であることを確認できた」

「猪苗代湖も磐梯スカイラインも若松城近辺も以前訪れた時と何ら変わりなく安心しました」

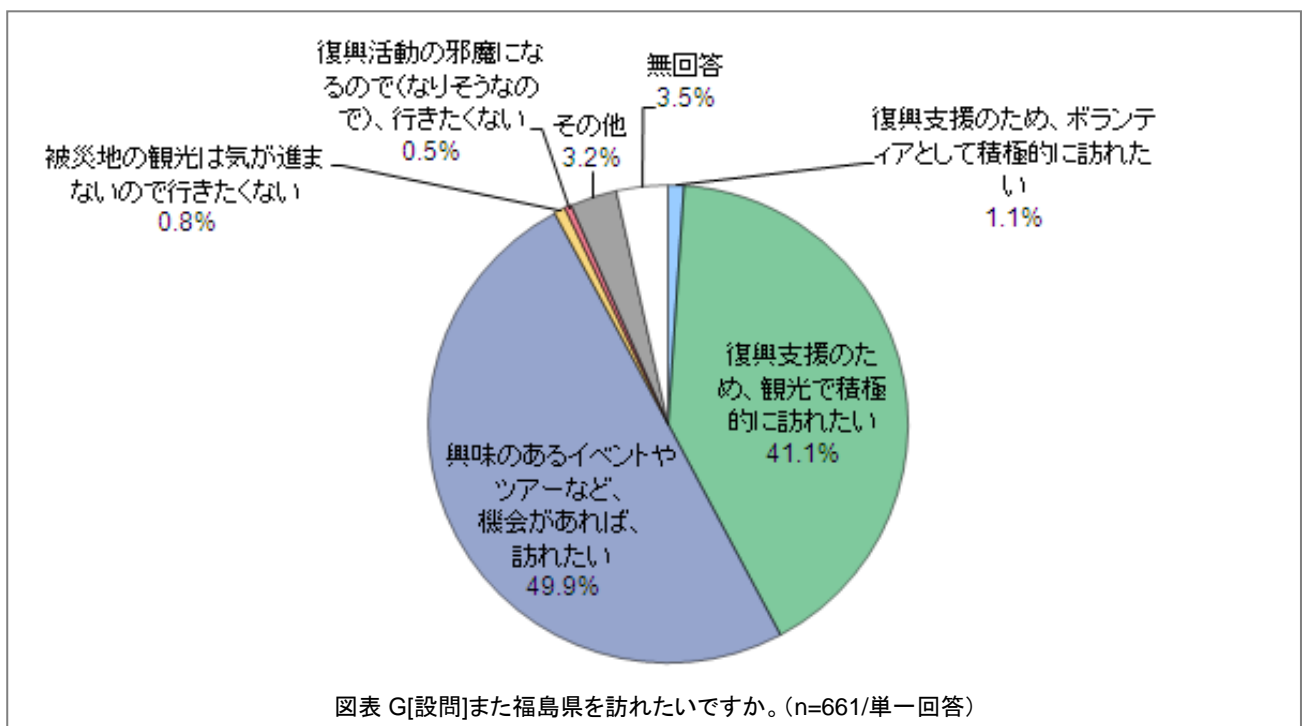
4) 福島県を訪れた感想は「訪れて良かった」が 91%

「福島県を訪れて良かったと思うか」の質問には、「そう思う」が 79.4%、「ややそう思う」が 11.6%と、訪れて良かったと思っている人が 91%にも上ることが分かりました(図表 F)。地元の方との触れ合いや歴史的建造物、自然、温泉、果物をはじめとするグルメなどの豊富な観光資源が高い満足度につながっていることがうかがえます。



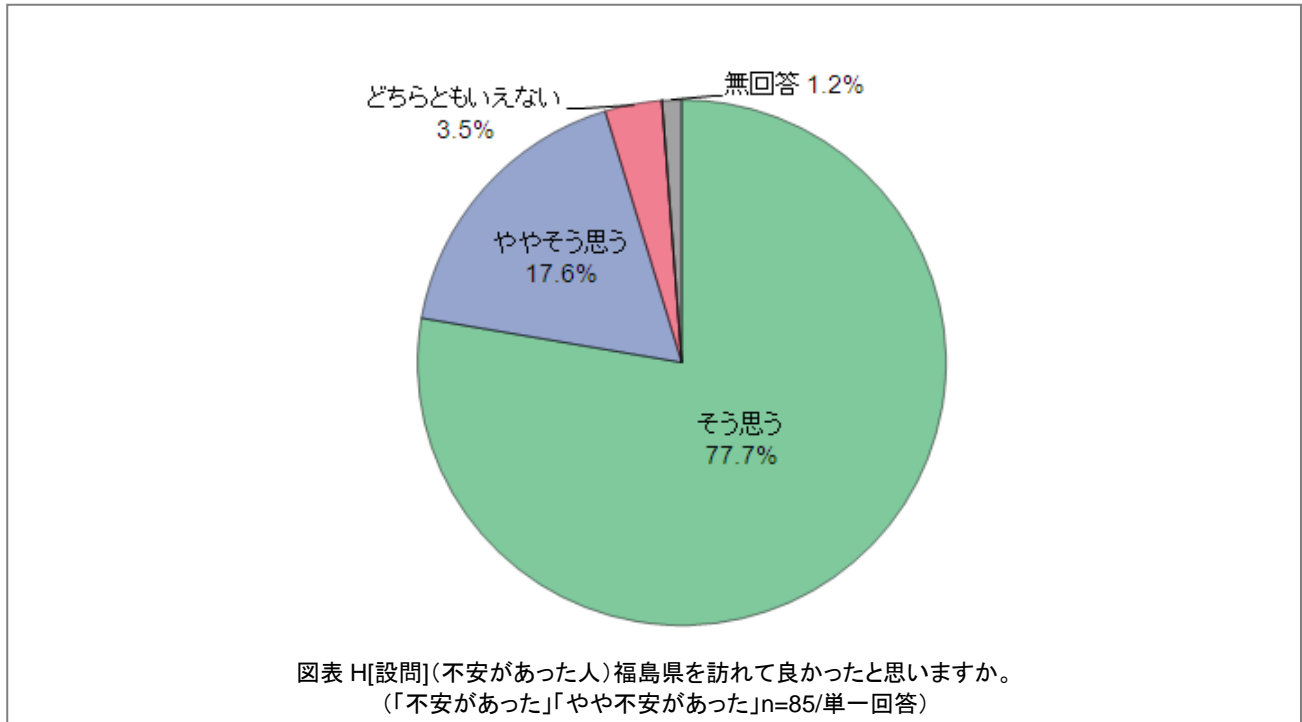
約 92%が福島県への再訪を希望し、「興味のあるイベントやツアーがあれば再訪したい」がトップ

再び福島県を訪れたいかの問いには「興味のあるイベントやツアーなど、機会があれば訪れたい」49.9%、「復興支援のため、観光で積極的に訪れたい」41.1%、「復興支援のため、ボランティアとして積極的に訪れたい」1.1%と、再訪を希望する人が 92.1%にも上ることが分かりました(図表 G)。復興支援の思いに加え、福島県の豊富な観光資源を高く評価し、再訪を検討していることが分かりました。

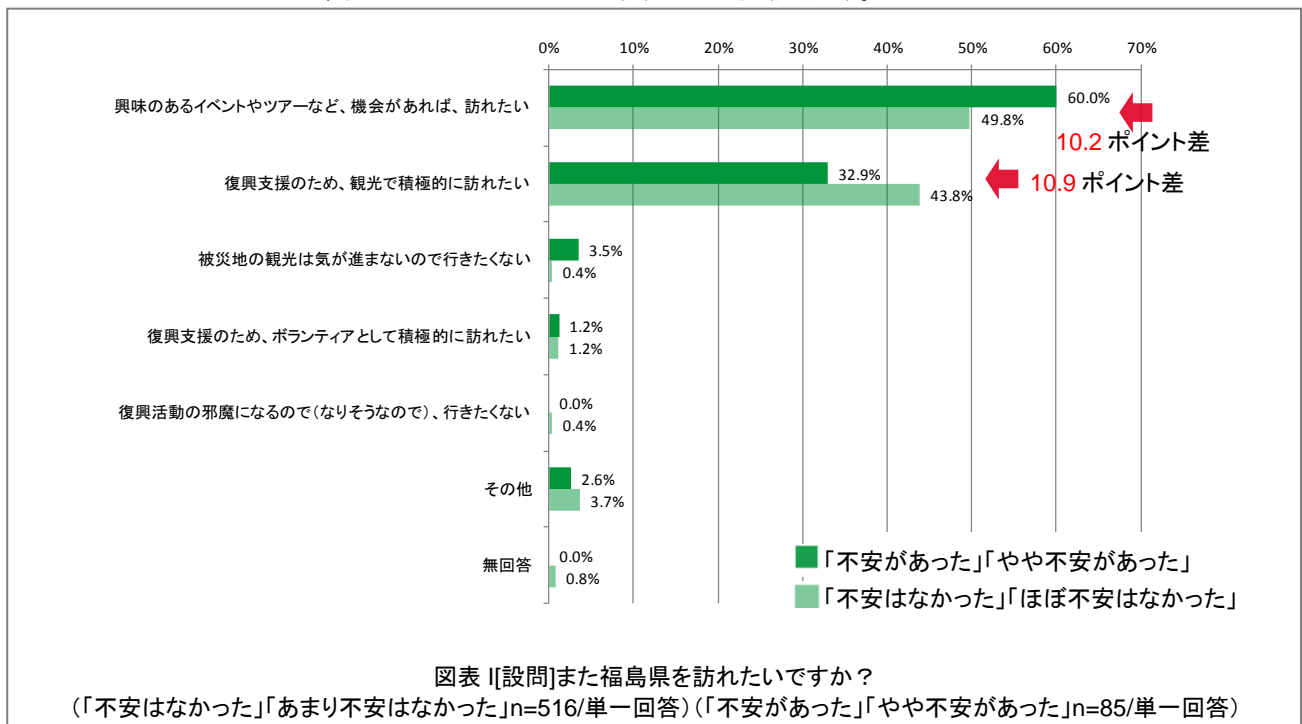


旅行前に不安があった人でも、旅行の満足度、再訪の意向は同様に高い

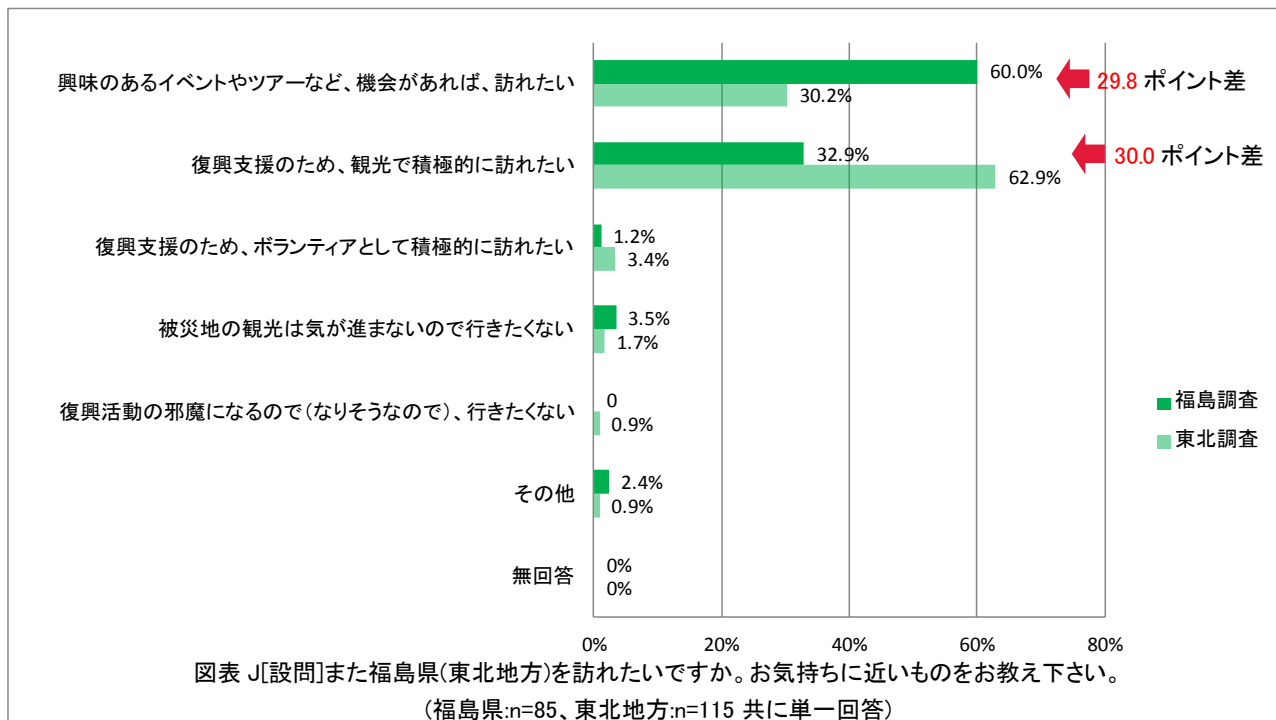
福島県を訪れる前に不安を感じていた人に、訪れて良かったか尋ねたところ、「そう思う」が 77.7%、「ややそう思う」が 17.6%と、95.3%もの人が、訪れて良かったと感じていることが分かりました(図表 H)。この値は旅行前に「不安はなかった」「あまり不安はなかった」と答えた人の「訪れて良かった」と答えた割合(94.4%)よりも高く、旅行前に不安を抱いていたにも関わらず、福島県への旅の満足度は非常に高かったといえます。



訪れる前に不安を感じていた人に対する再訪意向への問いには、「興味のあるイベントやツアーなど、機会があれば、訪れたい」の 60%に続いて、「復興支援のため観光で積極的に訪れたい」の 32.9%となりました。この順位は「不安はなかった」「ほぼ不安はなかった」と答えた人と同様でしたが、興味のあるイベント・ツアーは 10.2 ポイント高く、観光での訪問は 10.9 ポイント低いことから、不安に思っている人に対しては、より多彩なイベントなどを盛り込んだツアー商品が求められていると考察できます(図表 I)。



訪れる前に不安を感じていた人に対する再訪意向への問いで、「復興支援のために観光で訪れたい」と回答した人の割合が東北調査時の約半分になっており、「復興支援と関係なく良いところなのでまた行きたい」「定期的に温泉に行きたい」などの自由回答からも推測できるように、復興支援の意識よりも福島県の観光地としての魅力が高く評価されていることが分かりました。震災以前と変わらない現地の様子を見たことが不安の払拭、高い満足度と再訪希望につながったと考えられます(図表 J)。



5) 旅行先では震災被害や放射能の影響は感じないものの、観光客の少なさ・風評被害を実感

福島県旅行の印象を自由回答で質問したところ、被災地から離れているため、震災被害を感じることはなく、他の観光地と変わらないとのコメントが多くの旅行者から挙げられました。一方で、強く印象に残った点の自由解答欄(549件)では、観光客の少なさを指摘する声(69件)と「風評被害」に関する声(51件)が非常に多くあり、直接の震災被害を受けていない観光地の猪苗代湖や裏磐梯などを訪れた福島旅行者が、観光客の少なさと風評被害の影響を実感していることが浮き彫りになっています。

福島県旅行の印象
「被災地から離れている場所だったので、特に被害を感じず、普通と変わりありませんでした」
「緑に覆れた自然の姿はすばらしく、『美しい福島』という印象が強く残りました」
「震災後5ヵ月経過しているのに、2日間で観光バスとは1台も会わず、観光地が貸切状態だった」
「観光バスが少ないと感じた」
「美しい場所や良い物がたくさんあるのに観光客が少ない」
「直接の被災地ではない観光地なのに客足が減少して戻らないということを知り、風評被害の大きさを改めて感じました」
「豊富な海の幸、山の幸の産地で、収穫した物を販売できなくて廃棄しているのを見て、さぞ無念だろうと涙が出た」

<福島県の現状について>

福島県は自然や歴史、温泉、グルメなど観光資源に恵まれているにも関わらず、県内を訪れる観光客は激減しています。避難区域以外の放射線量は基準値以下になっている上、会津若松、猪苗代、裏磐梯高原などの会津地方は福島第一原子力発電所から70キロ以上離れています。また、福島県はホームページ上で「放射能測定マップ」(<http://fukushima-radioactivity.jp/>)を随時、公開しています。夏から秋にかけては、五色沼を含む裏磐梯地区は神秘の色をたたえた湖面など幻想的な大自然の景色を楽しんでいただけます。

福島県からのコメント（福島県観光交流局長 星 春男 氏）

「福島県は、未曾有の大震災に見舞われましたが、被災地の復旧・復興は急ピッチで進んでおり、地震・津波の影響を受けた観光施設も相次いで営業を再開しております。また原子力災害の影響につきましても、避難区域を除き、県民は通常の生活を取り戻しております」

「福島に遊びに来てくださることが、県民にとって何よりのエールとなりますので、今後とも本県に足を運んでいただきますようお願いいたします」

<クラブツーリズムの福島県復興支援の取り組み >

クラブツーリズムは、東日本大震災に対して、旅行会社として、旅を通して地方の活性化を図るため、福島県をはじめとする東北方面への旅やイベントを積極的につくり、多く実施してきました。風評被害による旅行者の減少、特に、団体ツアー客の減少が叫ばれる中、クラブツーリズムではこれからも福島県、東北地方へのツアーを展開してまいります。

■東北地方の観光業者と協力し、東北の「今」が伝わり、復興にも結びつくツアーを、いち早く、多数実施

クラブツーリズムは、日本各地の観光業者（旅館・ホテル、ドライブイン、観光施設、バス会社など）約2,500が参加する「パートナーズ会」を持ち、福島県のパートナーズとも強い協力関係を築いています。震災以降、福島県のパートナーズの協力のもと、実際に社員が現地視察を重ね、福島県の「今」が伝わり、復興につながるツアーをつくり上げ、ご参加いただいています。

*福島県 農産物復興プロジェクト「ふくしま 新発売。」や「ふくしま応援観光客誘致事業」に協力するなど、自治体と連携

福島県が2011年8月に開始した農産物復興プロジェクト「ふくしま 新発売。」に共鳴し、報道取材ツアー用のバスの提供や、「会津・裏磐梯！秋のビッグプレミアムフェスティバル」など、福島県を訪れるツアーを企画・販売することを通じて、サポートをしています。

また、2012年6月に福島県が発表した風評被害払拭に向けた観光PRと戦略的に誘客を図る「ふくしま応援観光誘客事業」に参加し、企業の研修旅行、国際会議、大規模な展示会などを通じ、福島県への誘客につなげたいと考えております。

■今後も、多くのツアーやイベントを通して、長期的な支援を実施

クラブツーリズムは、復興応援ツアーの1つとして東北地方の夏祭りのさががけとされ、500騎余りの甲冑姿の騎馬武者が集まり、馬を走らせ競い合う「相馬野馬追(ソウマノマオイ)」観覧ツアーを発売中です。

その他復興支援イベントとして「第2回裏磐梯プレミアム『絆』フェスティバルと飯坂フルーツフェスタ」などを開催する予定です。また、SLやなつかしの車両を利用した復興支援特別列車の企画など、今後も多くの福島ツアーやイベントを通して、積極的かつ長期的な復興支援を行ってまいります。

福島復興支援イベント企画、特別列車企画(予定)

- ① 第2回裏磐梯プレミアム「絆」フェスティバルと飯坂フルーツフェスタ 2012年10月
- ② 紅葉ウォークと大内宿散策&会津鉄道特別運行 2012年10月下旬
- ③ 秋のふくしま「絆」フェスティバルと小名浜ビッグ港まつり 2012年11月
- ④ 裏磐梯エコナイトファンタジー「クラブツーリズムオリジナル福島への祈り」 2013年2月下旬
- ⑤ 新島八重ゆかりウォークと会津街歩き 2013年3月下旬
- ⑥ なつかしの485系貸切運行「たべっしや・あいづ喜多方号」 2012年7月
- ⑦ なつかしの485系貸切運行「たべっしや・あいづ会津若松号」 2012年7月
- ⑧ SLばんえつ物語・特別貸切「たべっしやSLばんえつ号」 2012年11月中旬